

○議長（河野）13番、井上博道君。

○13番（井上）はい。13番、井上です。

○議長（河野）井上君。

○13番（井上）それでは通告に従いまして質問をさせていただきます。

「綾川流域の河川関連課題と連携策について」。

本町から坂出市にかけて広がる綾川流域は、歴史的にも生活圏的にも深い結びつきを持ち、農業用水、生活環境、観光資源等が集約される重要な地域です。一方で、人口減少、停滞ぎみの地域産業、警戒を要する河川環境や防災リスク等、多面的な課題が存在しています。綾川流域は行政界を越えて連続しており、片方の行政だけの取組では十分な成果が生まれにくく、流域全体の一体的な施策展開が不可欠なのではないかと思われまます。

安心安全の面では、気候変動による豪雨が増加しており、綾川は氾濫や越水リスクが常にあります。長柄ダム嵩上げ後の、府中ダムとの連携も懸念されます。加えて、私の過去の一般質問で指摘したような、山間部や農地の管理不足、不法転用、不法投棄は、災害リスクを増幅する要因となります。観光面では、本町の里山景観、道の駅、近接の府中湖や府中町地域の歴史資源等、素材は多いのですが、両市町の連携が十分でないと、面的な周遊は成立しにくいのではないかと思われまます。また、人口減少、過疎化、農業の担い手不足等は、地域づくりの継続を難しくしています。

以上は問題の一端ですが、これらを踏まえた綾川流域の河川関連課題と連携策について、常体で大変失礼ですが、以下の4点に対する本町の基本的な見解を伺います。私の所属委員会の問題・課題とも重なる部分が一部あるかもしれませんが、事柄の性質上、ご容赦願います。

1、綾川は豪雨時に水位が急上昇し、府中湖からの放流量増加とも相まって、下流部へ負荷が集中する構造にある。上流・下流の自治体が別々に対策を講じても限界がある。河川行政としての情報共有、排水設備の共同整備、氾濫シミュレーションの共有による防災・減災体制の一層の整備が急務であると思うが、どのように考えるか。

2、1と関連して、堤防強化・浚渫・雨量観測の拡充等の治水対策を、本町と坂出市の共同事業として計画化する必要があると思われる。加えて、土砂流出源となる山腹や耕作放棄地の管理を流域単位で進め、地域住民・土地所有者・行政が連携した「綾川流域治水協議会」のような共同組織の設置・運営が望ましいと思われる。また、防災情報の共有体制構築・強化、避難情報や河川水位情報をスマートフォンでリアルタイム連携するシステム構築、単一自治体ではなく、流域合同での防災訓練実施による住民意識の向上と情報伝達の精度向上を図ることが大事だと思われる。府中ダムは利水専用ダムであり、「防災の任を負っていない」と言う人もいるようだが、綾川流域全体の治水の観点からは芳しくない認識である。以上について、どのように考えるか。

3、両市町の地域経済、観光のつながりが十分ではないと思われる。本町は自然環境、道の駅、坂出市（とりわけ、近接の府中町）は歴史遺産、高速・JR交通アクセス

等の特色を持つが、互いが補完し合う仕組みが十分ではない。綾川流域一体の観光ルート設定、特産品の共同ブランド化、各種イベントの合同開催により、交流人口を増やし、地域の経済循環を強化できると思うが、どのように考えるか。

4、本町と坂出市府中町では、高齢者の通院・買い物の移動確保が不十分で、医療・生活サービスへのアクセスに地域差が生じている。移動手段の弱さが、安心・安全を損なう一因である。両地域が連携して、綾川上流と下流を結ぶ交通網を再編し、広域的な運行や、病院・商業施設を結ぶ共通便を軽備することにより、住民生活の安心感が更に高まり、流域全体の活性化にもつながると思うが、どのように考えるか。

本町と坂出市との綾川流域連携が必要な理由は、次の点に集約できるのではないかと思います。「自然環境（治水・利水・水質）の共有による一体管理が不可欠である」「経済圏としての補完関係が強く、相乗効果大きい」「広域防災で安全性を高められる」「人口減少に対して、広域連携が合理的な解決策となり得る」「観光・特産品での共同ブランド化が可能」。

即ち、綾川流域は「安心安全・自然・生活・経済」が既に一体となっており、行政もそれに合わせて「流域型の連携」を進めることが、地域の未来にとって最も効果的と言えるのではないかと私は思います。安心安全で更に活気があり、住みやすく、住み続けたい町・流域実現のための、綾川流域の河川関連課題と連携策についての本町の基本的な考えをお聞きして、私の質問を終わります。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい、議長。

○町長（前田） ご質問にお答えをいたします。

まず、1点目の綾川流域の自治体間連携による、防災・減災体制確立の必要性と、2点目の共同組織設置による治水対策の一体的な実施についてであります。流域全体を考慮した防災・減災体制を整備し、各種の対策を広域的に実施していくことは、大変重要なことであると認識をしております。

このことから、河川管理者であります香川県が主体となって「香川県大規模氾濫等減災協議会」が設立され、流域ごとに「流域治水分科会」を設けております。綾川に関する分科会では、関係する3市2町と県、高松地方气象台などによる、情報交換や各種検討等を行い、「流域治水プロジェクト」を策定しております。このプロジェクトは、流域内のあらゆる関係者が、ハード・ソフトの両面から流域治水を推進するための様々な対策と、その実施主体が見える化するとともに、目標達成に向けたロードマップを示しているものであり、農地や山林の保全、ICT等を活用した情報提供、利水ダムにおけます事前放流の実施などについても、対策として掲げ、連携しながら取組を進めているところであります。

引き続き、これらの取組を推進していくことで、流域内での連携を図り、流域全体と

しての防災・減災体制、治水対策の強化に努めてまいりたいとこのように思っております。

3点目の地域経済・観光についてであります。綾川流域は、豊かな水資源と美しい景観を誇り、四季折々の風景や歴史的な名所が点在していることから、多くの観光客にとっても魅力的なエリアとなっております。町といたしましても「あやがわサイクルマップ」や県と共同で「てくてくさぬき」と題した、中讃地区連携のまち歩きマップを作成し、PRに努めております。近隣の市町との共同イベントにつきましてもは県観光振興課を含め今後、検討してまいりたいとこのように思っております。

4点目の交通の利便性の向上についてであります。本町住民における町内の主要な医療・生活サービスへのアクセスという観点から考えると、定時定路線型の路線バス及び自宅から固定目的地までの運行を可能としているデマンドタクシーによりアクセスを確保しております。本質問の内容は本質的に坂出市における課題であると認識しております。しかしながら、他市町との連携による広域的な公共交通網の構築というのは地域住民の利便性向上につながる可能性がある取組であるため、今後も近隣市町と連携して、広域的な運行等について研究してまいります。

本町では多くの住民の生活圏が、高松市を中心として形成されておりますが、綾川を軸とした流域内での結びつきは、歴史的に見ても古く、重要なものであると考えており、引き続き、防災・減災対策を始めとし、様々な面で、その可能性を検証し連携を今後とも図ってまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○13番（井上）はい。

○議長（河野）井上君。

○13番（井上）はい。

○13番（井上）本町が瀬戸・高松広域連携中枢都市圏に参画しているのは私も一応認識はしてるんですけども、先ほど申し上げましたように、やっぱり歴史的にも綾川、特に航空写真とかで見てもそうですね、やはり本町と府中地区は非常に密接に、物理的にも歴史的にもいろいろつながってますので、言われとると失礼ですけど、認識をすごい持たれていると、ある意味安心をいたしましたけども。高松との広域連携も大事ですけど、引き続き近隣の府中地域との連携もよりいっそう進めていただければと思います。

これはちょっと事前の通告には書いてなかったんですけども、関連することですけど、府中町地域にパイロット農地ですか、たぶん府中ダムの西側近辺じゃないかと思うんですけども。三菱地所かどこかの大型のモールが来るような計画もあるように聞いております。そうするとですね、イオンも今んところは順調みたいですけど、民間企業ですから、いつまでどうなるかわかりませんし、ここ最近の隣国、はっきり言うと中国との関係のこともいろいろありますけども、府中町の先ほど申し上げたモールのな大

きなものができて、ちょっと本町のイオンが若干下火傾向とかになってくると、人の流れとかそういうのが逆転するんじゃないかなと素人的にもそういう考えるんですけども。そういうことがありますんで、今後の、いろんな情報を掴んでいただいでですね、今まで以上にうちと隣の府中地域との連携を更に深めていろいろ検討していただければという、これは要望ですけれども。

それと1点だけ質問ですけれども、先ほど2番目の最後に書きましたけれども、府中ダムの利水専用ダムであり、防災の任を負っていないという人もいるようだがと、これ実際言うた人がおったんですね。誰とは申し上げませんが、利水関係の人ですね。こういう人がやっぱ綾川の中で、こちらも重要性、私も理解してるつもりですけども、ちょうど真ん中の辺りで本町の治水にも大きく関係していきますけど、真ん中で占めている府中ダムの関係者が防災の任を負っていないと、言うんだったら、県の土木部とか河川港湾課に言ってくれみたいなこと、そういう認識らしいですけども。これはやっぱり県ももちろんですけど、綾川町、坂出市も含めてですね、やっぱり利水も大事ですけど防災とかやっぱその一番大事ですから、こういう発言もあったということを踏まえて、本町としてはもう少し綾川流域一帯、治水、防災の観点で、更に県とか利水関係者へも含めて一言コメントというか、こういう意見を言ってみたりとか何かそういう警告というか、お気持ちがあればお聞かせ願います。

○建設課長（田岡） はい、議長。

○議長（河野） 田岡建設課長。

○建設課長（田岡） 失礼いたします。井上議員の再質問にお答えをいたします。

1点目の府中町の大型のモールの件に関しては現在のところ何も決まっておりますので、引き続き情報収集に努めてまいりたいというふうに考えております。

2点目の府中ダム、こちらの防災上の役割ということで町の考えはということですが、当然のことながら利水ダムでございますので、番の州方への水の供給、これを目的に整備をされたダムというのは当然のことではございますけれども、先ほど町長答弁にもございましたとおり、流域治水プロジェクト、この中で令和2年から事前放流、これをですね、上流域の長柄ダムと連携をして行っておる。本町といたしましても重要な防災施設の1つであるというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（河野） 再々質問はございませんか。

○13番（井上） はい、ありません。今後ともひとつよろしくお願ひします。終わります。

○議長（河野） 井上君の一般質問を終わります。